

取材日：令和6年3月12日 午後 曇り 取材対象：【匿名希望】

数年前の大雪によって幹が裂けてしまった樹を持ち直すために、木柱の導入を始めました。大きく裂けてしまった樹でも、かすがいで裂け目をくっつけ、木柱で支えておくことで裂開箇所が修復していきます。

樹が損傷を受けた場合で改植をすれば、果実がなるまでに数年を費やしてしまいますが、木柱で修復することで少しでも収量を維持した状態で栽培することができます。

現在、りんごと西洋なしとで計2haほど栽培していますが、雪害を未然に防ぐ試みとして、直径9cmの木柱を100本近く導入し、年間を通し設置したままで太い枝を支えています。木柱の設置には手間と若干の費用がかかりますが、樹が損傷を受けたときの復旧に費やす労力や被る経済的損失を考えれば、設置するメリットは十分であると考えています。

太い木柱は雪のない栽培管理時期にも設置することになるため、機械の動線を考慮した上で設置する必要があります。設置の際には、積雪による圧力にも耐えられるよう、可能な限り鉛直に木柱を設置するように心がけています。また、冬の間にもまめに園地を訪れ、支柱が外れていないかなど気を付けて雪害に対する注意を怠りません。

木柱は防腐処理が施されているため、設置の仕方に気を遣えば耐久性には問題がないようです。しかし、今後老朽化によって更新が必要となれば、市では支柱の購入費に対する補助\*がありますので、今後もこの助成を活用して木柱による雪害対策に継続して取り組んでいきたいと考えています。

#### ※果樹産地再生支援事業



写真：木柱の設置具合を確認する A さん



写真：かすがいによる修復



写真：木柱を活用している園地の様子